

英語教育講座 佐藤 臨太郎 教授

授業における教師のゼスチャーの効果について



キーワード 非言語コミュニケーション/ 言語習得/ 英語での授業/

どのような研究をなぜ行っているか

現在、高校での英語の授業は主に英語で行うことになっており、この「主に英語での授業」は中学でも実施される見込みです。第2言語習得（SLA）の観点からも、潤沢な質の高いインプットを与えることは、英語習得のための前提条件とされています。生徒の現在の英語能力より若干上のレベルではあるが理解可能である“ $i + 1$ ”のインプット（Krashen, 1982）を与えることが重要なのですが、本研究において、英語で授業を行っている中高の教員が、ゼスチャーを有効活用していることが、明らかになりました。ゼスチャーの目的としては、1）正確な意味や情報を伝えるため。2）抽象度の高い事柄の理解を促すため。3）「英語での授業」での生徒の不安を軽減し、より協力的・奨励的な雰囲気を作り出すため。等があげられます。今後、さらにゼスチャーの効用について深く研究していきます。なお、その他、フィードバックやコミュニケーション意欲、英語での授業の効果等、教室第2言語習得、応用言語学にかかわる研究を広く行っており、HP等を参照していただければと思います。

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

- 言語習得、学習におけるゼスチャー等の非言語コミュニケーションの具体的活用法を解明し、提示する。
- 教員養成において、言語指導におけるゼスチャー等の非言語コミュニケーションの活用法に焦点を当てたプログラムを開発する。
- ゼスチャー等の非言語コミュニケーションを活用した言語学習教材を開発する。
- コミュニケーション意欲を高める授業設計を提案する。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- 中部地区英語教育学会運営委員
- 関西英語教育学会紀要編集委員
- 全国英語教育学会査読委員
- 奈良教育大学英語教育研究会会長
- 日本言語テスト学会広報委員
- 全国英語教育学会紀要編集委員会副委員長
- 奈良県、三重県、兵庫県、大阪府、香川県、滋賀県教育委員会主催教員研修講師等